

# OECD 没入型技術に関するワークショップ

---

没入型技術の利活用促進に向けたマルチステークホルダー連携会合  
(第2回)

令和 8 年 3 月

# OECD 没入型技術に関するワークショップについて

- OECDは2月12日、総務省の協力を得て、没入型技術に関するワークショップ(オンライン)を開催。「没入型技術の利活用促進に向けたマルチステークホルダー連携会合」の小塚座長が基調講演とパネルディスカッションに対応。

※ OECDメンバー国、OECD事務局、EC、国連、UNDP等の180人が参加

## 議事次第

開催日時:2月12日(木) 21時~23時

(仏パリ時間同日13時~15時)、オンライン、言語:英語

- ◆ 開会挨拶: OECD科学技術イノベーション局AI・新興デジタル技術部長
- ◆ 基調講演: 小塚座長
- ◆ OECD事務局プレゼン: OECDが取りまとめた「没入型技術に関する国家戦略・政策概況」について
- ◆ パネルディスカッション: 没入型技術の国家戦略・政策について (パネリスト:小塚座長、ECデータ担当副局長、Meta、仏民間団体)
- ◆ 事例紹介: 都市のデジタルツインと気候のリスク管理、人体の仮想化による健康・医療面への活用、看護師と外科医のための没入型手技の訓練
- ◆ 閉会挨拶: 同局 新興デジタル技術ユニット長

## ワークショップの目的

- 没入型技術の開発・展開を形作る上で国際協力が重要であることを確認し、共有されている繁栄、安全保障、社会福祉に貢献
- 戦略的対話の場として信頼されるOECD新興技術に関するグローバルフォーラム(GFTech)の役割を強調し、没入型エコシステムへの共通理解を促進するとともに、一貫性のある世界的に整合したアプローチを支援
- 没入型技術のための協調的なガバナンス体制の構築に向けた勢いを加速させ、プライバシー、安全性、人間中心設計、民主主義の原則を保護しつつ、イノベーションを促進
- データガバナンスの枠組み、相互運用性の基準、AIを活用した没入型環境におけるリスク軽減、インフラ・スキル開発、公平なアクセスを確保する戦略など、公共政策で取るアクションの優先分野を特定

## ワークショップの結果概要

### 基調講演

- 小塚座長より、没入型技術の利点(教育、医療、製造分野等での利活用)、リスク(個人データの広範な収集等)、政策動向に関して言及し、政策当局者がプラットフォームや他のサービス提供者と連携の上で行う適切なガバナンスが求められること、法令等による厳しい規制は馴染まず、全ての関係者による自発的だが効果的な関与が求められることについて呼びかけた。

### パネルディスカッション

- 小塚座長は、総務省の有識者会合座長として「メタバースの原則」策定をリードした経験と産業界との連携に関して、マルチステークホルダーでの議論が重要であること、産業界の考えも踏まえつつバランスを取ることが求められること等を発言。
- EC高官は、没入型技術に関する分野への投資を8年間続けてきて、今般、取組をアップデートし、仮想世界に係る欧州パートナーシップ (European Partnership on Virtual Worlds)を立ち上げたことを紹介。
- Metaは、人々が価値を決めること、ヒトゲノムがかつてそうだったように没入型技術についても理解が進み社会に価値をもたらすだろうと発言。



小塚座長